

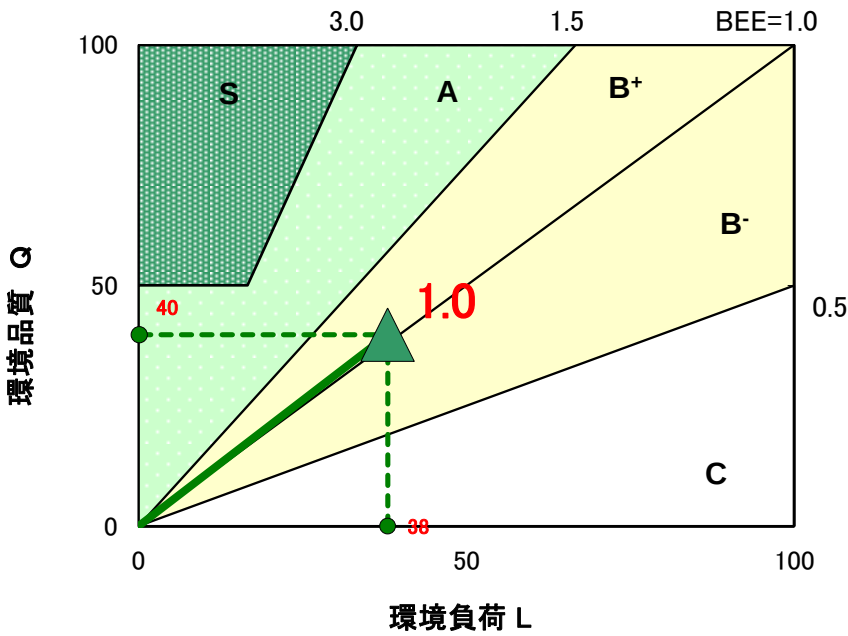
CASBEE® 熊本《新築》【性能表示】

■ 建物概要				■ 外観
建物名称	新熊本県商工会館新築工事	階数	地上8F	
建設地	熊本市中央区安政町3番36、3番5の	構造	S造	
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	100 人	
気候区分	6地域	年間使用時間	3,650 時間/年	
建物用途	事務所,	評価の段階	実施設計段階評価	
竣工年	2019年10月 予定	評価の実施日	2018年8月21日	
敷地面積	462 m ²	作成者	園田	
建築面積	370 m ²	確認日	2018年8月22日	
延床面積	2,833 m ²	確認者	伊東	

1 CASBEE評価結果

■ 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)





■ ライフサイクルCO₂排出性能 (ランク表示)



BEE = 1.0

■ BEE (環境効率) = $\frac{Q \text{ (環境品質)}}{L \text{ (環境負荷)}}$

■ 環境効率評価基準

ランク	ランク表示	評価	判定値	
			BEE値	Q値
S	★★★★★	素晴らしい	3.0以上	50以上
A	★★★★★	大変良い	1.5以上3.0未満	—
B ⁺	★★★★	良い	1.0以上1.5未満	—
B ⁻	★★★	やや劣る	0.5以上1.0未満	—
C	★	劣る	0.5未満	—

■ ライフサイクルCO₂ 排出性能評価基準

判定値 (排出率)	ランク表示
30%以下	☆☆☆☆☆
30%超60%以下	☆☆☆☆
60%超80%以下	☆☆☆
80%超100%以下	☆☆
100%超	☆

排出率

75%

2 熊本県重点評価結果

■ 重点事項総合評価



79

【重点事項1】 温室効果ガス排出量削減の推進

【重点事項2】 安全安心で暮らしやすい社会の実現

【重点事項3】 県の地域資源の有効活用と保全

【重点事項4】 循環型社会の実現

評価点

93.1

58.7

77.5

70.5

■ 熊本県重点評価基準

判定値 (評価点)	ランク表示
100点以上	
80点以上100点未満	
60点以上80点未満	
40点以上60点未満	
40点未満	

※評価点は、100点以上が推奨です。

Page : 1/6

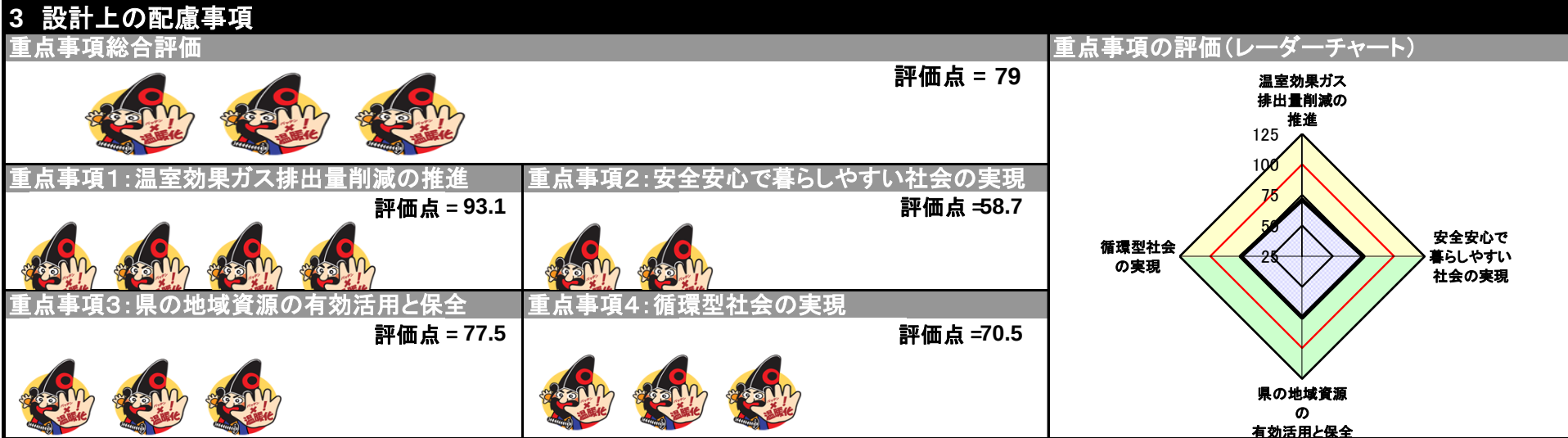
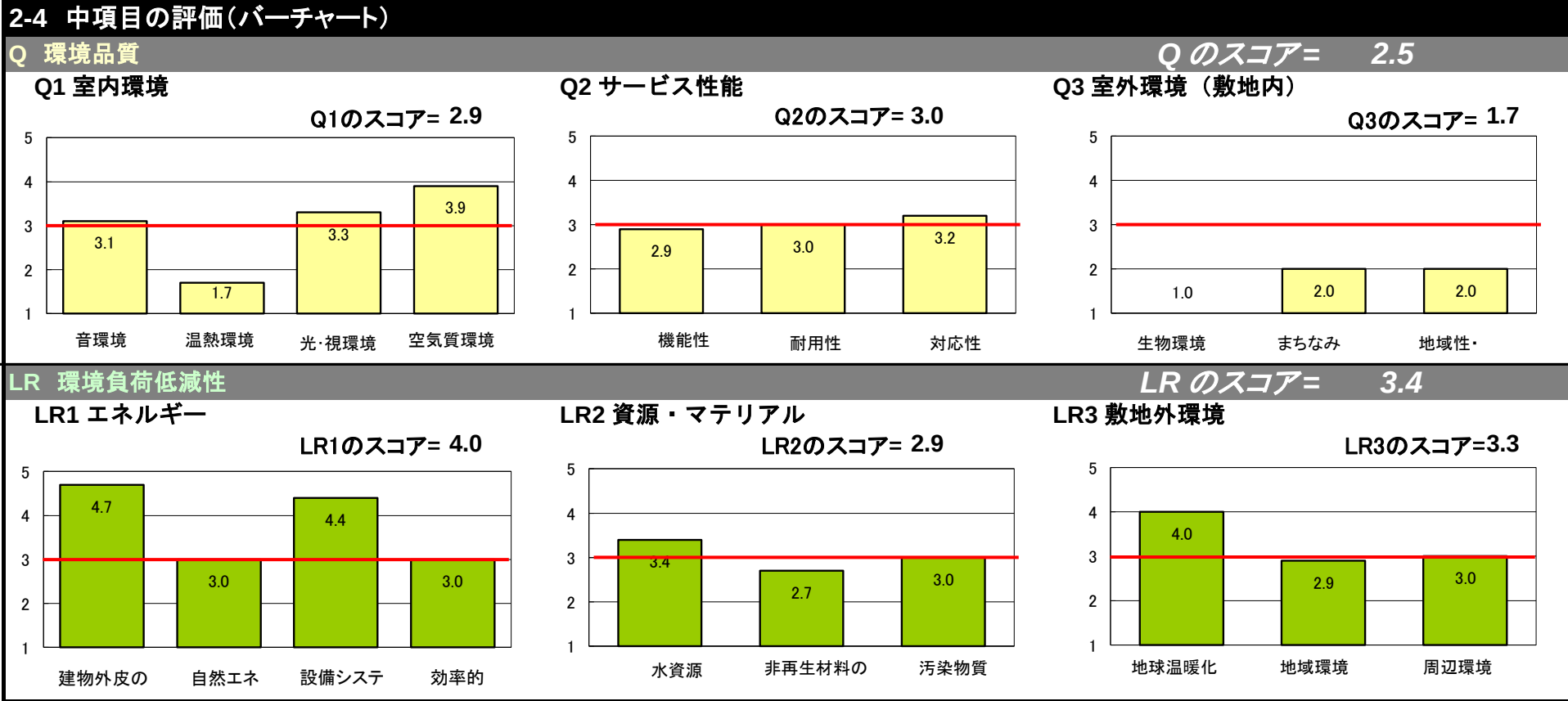
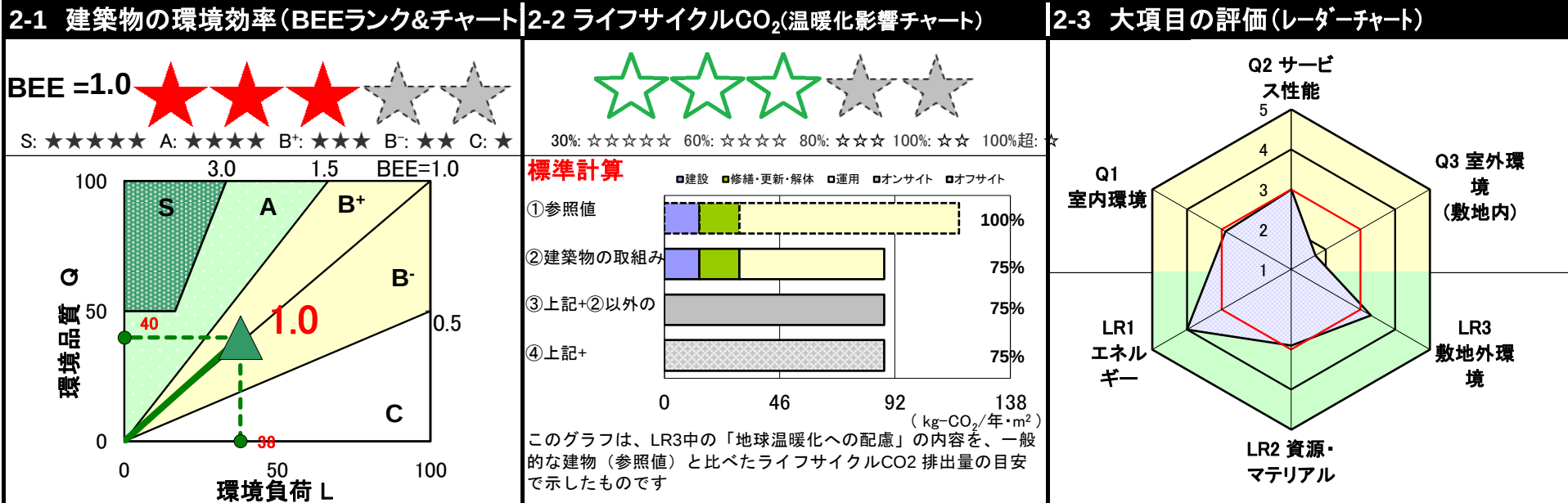
Sheet : 1/5

CASBEE®-建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)

1-1 建物概要			1-2 外観	
建物名称	新熊本県商工会館新築工事	階数		
建設地	熊本市中央区安政町3番36、3番50	構造		
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員		
地域区分	6地域	年間使用時間		
建物用途	事務所	評価の段階		
竣工年	2019年10月 予定	評価の実施日		
敷地面積	462 m ²	作成者	園田	
建築面積	370 m ²	確認日		
延床面積	2,833 m ²	確認者		
			伊東	



■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-建築(新築)2016年版
新熊本県商工会館新築工事■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2016年版
■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階							
配慮項目			環境配慮設計の概要記入欄						全体
					評価点	重み 係数	評価点	重み 係数	
Q 建築物の環境品質									2.5
Q1 室内環境						0.40		-	2.9
1 音環境					3.1	0.15	-	-	3.1
1.1 室内騒音レベル			T-2		3.0	0.40	-	-	
1.2 遮音					3.4	0.40	-	-	
1 開口部遮音性能		5.0			0.60	-	-		
2 界壁遮音性能		1.0			0.40	-	-		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		-			-	-	-		
					-	-	-	-	
1.3 吸音					3.0	0.20	-	-	
2 温熱環境					1.7	0.35	-	-	1.7
2.1 室温制御			窓 SC:0.31 U:3.6、外壁 U:1.04		2.5	0.50	-	-	
1 室温		3.0			0.38	-	-		
2 外皮性能		4.0			0.25	-	-		
3 ゾーン別制御性		1.0			0.38	-	-		
2.2 湿度制御					1.0	0.20	-	-	
2.3 空調方式					1.0	0.30	-	-	
3 光・視環境					3.3	0.25	-	-	3.3
3.1 昼光利用			昼光率:20.4%		4.2	0.30	-	-	
1 昼光率		5.0			0.60	-	-		
2 方位別開口		-			-	-	-		
					3.0	0.40	-	-	
3.2 グレア対策					3.0	0.30	-	-	
1 昼光制御				3.0	1.00	-	-		
3.3 照度					3.0	0.15	-	-	
3.4 照明制御					3.0	0.25	-	-	
4 空気質環境					3.9	0.25	-	-	3.9
4.1 発生源対策			F☆☆☆☆建材の積極的な採用		4.0	0.50	-	-	
1 化学汚染物質		4.0			1.00	-	-		
4.2 換気					3.6	0.30	-	-	
1 換気量				3.0	0.33	-	-		
2 自然換気性能			0.067≧0.067(1/15)		5.0	0.33	-	-	
3 取り入れ外気への配慮					3.0	0.33	-	-	
4.3 運用管理					4.0	0.20	-	-	
1 CO ₂ の監視				3.0	0.50	-	-		
2 喫煙の制御			建物全体が禁煙、喫煙室なし		5.0	0.50	-	-	
Q2 サービス性能					-	0.30	-	-	3.0
1 機能性					2.9	0.40	-	-	2.9
1.1 機能性・使いやすさ			OAフロア+コンセント容量:40VA/㎡以上+通信事業者用配線スペース		3.3	0.40	-	-	
1 広さ・収納性		3.0			0.33	-	-		
2 高度情報通信設備対応		4.0			0.33	-	-		
					3.0	0.33	-	-	
1.2 心理性・快適性					2.0	0.30	-	-	
1 広さ感・景観				3.0	0.33	-	-		
2 リフレッシュスペース				2.0	0.33	-	-		
					1.0	0.33	-	-	
1.3 維持管理					3.5	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計				4.0	0.50	-	-		
2 維持管理用機能の確保					3.0	0.50	-	-	
2 耐用性・信頼性					3.0	0.30	-	-	3.0
2.1 耐震・免震・制震・制振			給水:B、給湯:D、雑排水:B		3.0	0.50	-	-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		3.0			0.80	-	-		
2 免震・制震・制振性能		3.0			0.20	-	-		
2.2 部品・部材の耐用年数					3.2	0.30	-	-	
1 躯体材料の耐用年数		3.0			0.20	-	-		
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		2.0			0.20	-	-		
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		3.0			0.10	-	-		
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0			0.10	-	-		
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		5.0			0.20	-	-		
6 主要設備機器の更新必要間隔					3.0	0.20	-	-	
2.4 信頼性					3.0	0.20	-	-	
1 空調・換気設備				3.0	0.20	-	-		
2 給排水・衛生設備				2.0	0.20	-	-		
3 電気設備				3.0	0.20	-	-		
4 機械・配管支持方法		耐震クラスS		5.0	0.20	-	-		
5 通信・情報設備				2.0	0.20	-	-		

3 対応性・更新性				3.2	0.30	-	-	3.2
3.1 空間のゆとり			階高:3.95m(基準階)	4.2	0.30	-	-	
1	階高のゆとり	5.0		0.60	-	-		
2	空間の形状・自由さ	3.0		0.40	-	-		
3.2 荷重のゆとり				3.0	0.30	-	-	
3.3 設備の更新性				2.6	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性	3.0		0.20	-	-		
2	給排水管の更新性	3.0		0.20	-	-		
3	電気配線の更新性	3.0		0.10	-	-		
4	通信配線の更新性	3.0		0.10	-	-		
5	設備機器の更新性	1.0		0.20	-	-		
6	バックアップスペースの確保	3.0		0.20	-	-		
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	1.7	
1 生物環境の保全と創出			1.0	0.30	-	-	1.0	
2 まちなみ・景観への配慮			2.0	0.40	-	-	2.0	
3 地域性・アメニティへの配慮			2.0	0.30	-	-	2.0	
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			2.0	0.50	-	-		
3.2 敷地内温熱環境の向上			2.0	0.50	-	-		
LR 建築物の環境負荷低減性				-	-	-	3.4	
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	4.0	
1 建物外皮の熱負荷抑制			[BPI _m]=0.83	4.7	0.20	-	4.7	
2 自然エネルギー利用				3.0	0.10	-	3.0	
3 設備システムの高効率化			[BEI][BEI _m]= 0.66	4.4	0.50	-	4.4	
4 効率的運用				3.0	0.20	-	3.0	
集合住宅以外の評価				3.0	1.00	-	-	
4.1	モニタリング	3.0		0.50	-	-		
4.2	運用管理体制	3.0		0.50	-	-		
集合住宅の評価				-	-	-	-	
4.1	モニタリング	-		-	-	-		
4.2	運用管理体制	-		-	-	-		
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	2.9	
1 水資源保護				3.4	0.20	-	-	3.4
1.1 節水			節水コマ、節水型機器の採用	4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				3.0	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	-		
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-		
2 非再生性資源の使用量削減				2.7	0.60	-	-	2.7
2.1 材料使用量の削減			ー	2.0	0.10	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.20	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用				3.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用				1.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材				3.0	0.10	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取り組み				再利用できるユニット部材を使用(OAフロア)	4.0	0.20	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避				3.0	0.20	-	-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避				3.0	0.70	-	-	
1	消火剤			-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)			3.0	0.50	-	-	
3	冷媒			3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.3	
1 地球温暖化への配慮			ライフサイクルCO2排出率:75%	4.0	0.33	-	-	4.0
2 地域環境への配慮				2.9	0.33	-	-	2.9
2.1 大気汚染防止			燃焼機器使用なし(電気温水器)	5.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善				2.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制				2.7	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-		
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-		
3	交通負荷抑制	自転車置場の確保,隣地に駐車スペース有り,駐車場が隣接している 為周辺道路の渋滞緩和	4.0	0.25	-	-		
4	廃棄物処理負荷抑制		1.0	0.25	-	-		
3 周辺環境への配慮				3.0	0.33	-	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.40	-	-	
1	騒音	3.0		1.00	-	-		
2	振動	-		-	-	-		
3	悪臭	-		-	-	-		
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				3.0	0.40	-	-	
1	風害の抑制			3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制			3.0	-	-	-	
3	日照障害の抑制			3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制				3.0	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			3.0	0.70	-	-	
2	昼光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			3.0	0.30	-	-	

CASBEE® 熊本《新築》【配慮事項】

4 設計上の配慮事項

総合

都市環境・周辺環境との調和を考慮した計画とした。

Q1 室内環境

・遮音性の等級T-2以上の建具を積極的に使用し、交通騒音などの外部騒音の抑制に配慮した。

Q2 サービス性能

・機器、配管、風道等は耐震クラスS。

Q3 室外環境（敷地内）

・空調室外機は屋上（GL+10m以上の位置）に設置し、高温排熱の放出部を設置しないことで、敷地内歩行者空間等の暑熱環境緩和に配慮した。

LR1 エネルギー

・建具は省エネルギー性の高い複層ガラスとし、熱損失、熱取得の低減に努めた。
・高効率の照明、空調機器を採用し、省エネルギーに努めた。

LR2 資源・マテリアル

・節水コマに加えて、省水型機器を採用することで水資源保護に努めた。

LR3 敷地外環境

・燃焼機器を使用しないことで、大気汚染防止に配慮した。

その他

熊本県重点評価結果スコアシート

実施設計段階

建物名称 新熊本県商工会館新築工事

■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)

■使用評価マニュアル: CASBEE熊本《新築》2017年版

★熊本県重点評価結果					総合評価点	79
重点事項				評価点	重点事項 重み係数	評価配点
重点項目(配慮項目)		スコア	重み 係数			
① 温室効果ガス排出量削減の推進				93.1	0.40	37.24
Q1-2.1.2	外皮性能	4.0	0.05			
Q1-3.1.3	昼光利用設備	3.0	0.05			
Q1-3.2.1	昼光制御	3.0	0.05			
LR1-1	建物外皮の熱負荷抑制	4.7	0.15			
LR1-2	自然エネルギー利用	3.0	0.20			
LR1-3	設備システムの高効率化	4.4	0.30			
LR2-2.1	材料使用量の削減	2.0	0.10			
LR3-2.3.3	交通負荷抑制	4.0	0.10			
② 安全安心で暮らしやすい社会の実現				58.7	0.20	11.74
Q2-1.1.3	バリアフリー計画	3.0	0.25			
Q2-2.1.1	耐震性	3.0	0.25			
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.15			
Q3-3	地域性・アメニティへの配慮	2.0	0.20			
LR3-2.2	温熱環境悪化の改善	2.0	0.15			
③ 県の地域資源の有効活用と保全				77.5	0.20	15.50
Q3-2	まちなみ・景観への配慮	2.0	0.20			
LR2-1.1	節水	4.0	0.30			
LR2-1.2.1	雨水利用システム導入	3.0	0.20			
LR2-2.5	持続可能な森林から産出された木材	3.0	0.30			
④ 循環型社会の実現				70.5	0.20	14.10
Q2-2.2	部品・部材の耐用年数	3.2	0.30			
Q2-3	対応性・更新性	3.2	0.30			
LR2-2.2	既存建築躯体等の継続使用	3.0	0.10			
LR2-2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15			
LR2-2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	1.0	0.15			

■評価点算出式

評価点は、以下の方法により算出しています。

◆総合評価結果

総合評価点 = (各重点事項の評価点 × 各重点事項の重み係数) の総和
 ※重み係数の総和は、「1」であること。

◆各重点事項(①～④の項目)

評価点 = (各重点項目のスコア × 各重点項目の重み係数) の総和 × (5/4) × 20
 ※重み係数の総和は、「1」であること。
 ※(5/4) × 20 : スコア4点を評価点100点に変換するスケーリング定数